

樟 蔭 学 園 報

Vol. 179

2018 Summer

くすのき

Kusunoki



谷小夏さんが手がけた樟蔭中学校のポスター 原画(部分)

CONTENTS

● 巻頭特集— 進む樟蔭の国際教育

柔軟な視野、 積極性を育むために

楠野 宣孝 校長・小林 正樹 副校長

1

● SHOIN LABO — 「地域に寄り添う社会貢献のかたち」大谷 幸子先生

3

● こもればの窓 — 「自分らしさが伝わる絵を描き続けたい」谷 小夏さん

5

● NEWS — 「各校の卒業式&入学式」ほか

7

● WingBEAT! — 「夢に向かって資格を取得
挑戦の先に新しい自分を発見」●●●●●さん

14

● 2017(平成29)年度決算概要報告

15

● Information — 「イベントのお知らせ」「クラブ活動報告」

17

● FORUM — 「新任教員紹介」ほか

18

● リレー★コラム 山崎 晃男先生 & STAFF@SHOIN 高原 三奈さん

19



はばたけ、知性。

ウガンダ・プロジェクト



自治会執行部とマセリンさん

国際理解の入り口

本校が力を注いでいる取り組みのひとつに、国際理解教育があります。その枠組みのもとで、生徒たちがグローバルな視点を持ち、海外とつながる取り組みを行いたいと考えてきました。その結果生まれたのが、経済的に困窮しているアフリカの子どもたちに支援の手を差し伸べようとする「ウガンダ・プロジェクト」。ウガンダは貧しい農業国で、教育環境も十分ではありません。こうした状況を知ることが、樟蔭の生徒にとっては国際理解への入り口となります。

このプロジェクトは、「ウガンダ製のオーガニック・コットンでオリジナルのトートバッグを作り、樟蔭中学生・高校生のサブバッグとすること」、および「生徒の家に眠っている文房具を集め、ウガンダの子ども達に寄贈すること」という2つの活動で構成されています。

ウガンダ綿のサブバッグを導入



サブバッグは、昨年度末で製造中止となった従来の補助バッグに代わるものとして、2018年度以降に入学する中高生用に新たなバッグを開発。実際のコーディネート、製造は泉州タオルの本拠地・泉佐野市を拠点に、ウガンダ北部の繊維産業開発に取り組んでいる企業と連携しました。

バッグにはウガンダを表す「Pearl of Africa」という文字と、樟蔭とのコラボレーションを示すロゴをあしらっています。生徒たちには、長く

樟蔭中学校 副校長
小林 正樹

樟蔭中学校・高等学校 校長
楠野 宣孝

進む樟蔭の国際教育

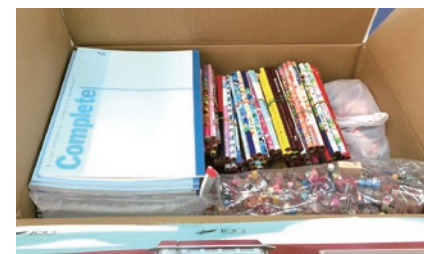
柔軟な視野、積極性を育むために

丁寧に使ってほしいとお願いしています。

文房具を通じた支援は、自治会執行部が自作のポスターを構内に掲示し、集会で募るなど、積極的に活動。その結果、自宅で眠っていた13キロの文房具が集まり、現地の小学校に配送されました。また、5月には国際大会に参加するため来日中だったウガンダの女子陸上選手マセリン・チェンラガトさんが本校を訪れ、生徒たちとの交流を楽しみました。

世界に向けて動き出す樟蔭生たち

「ウガンダ・プロジェクト」を通じた生徒たちの成長は著しいものでした。自治会の生徒たちは、文具を送る活動に最後までしっかりと取り組み、アフリカ、ウガンダの地理や社会情勢などを学びました。その結果、内戦の被害を受け、辛い目にあっている子どもたちがいるこ



自治会執行部が作った「ウガンダ・プロジェクト」のポスター(右)と文房具(左)



樟蔭中学校・高等学校は、楠野宣孝校長のもとでグローバル教育を推進し、着実に国際化に努めてきました。その中で昨年スタートした「ウガンダ・プロジェクト」を、アフリカの貧困とたたかう支援活動に取り組む生徒たちの姿とともに紹介します。また、本年度着任した小林正樹副校長を中心に、本格スタートした英語教育改革についてうかがいました。

とを学び、終業式の日にパワーポイントを使って全生徒に伝えたのです。やると決めたことはやり抜く樟蔭の生徒たち。これからも彼女らを信頼し、認め、多くのことに挑戦させてあげたいと思います。

.....

英語教育の充実を目指して

楠野校長が6年前の着任以来、英語教育センターの活用など、学内における英語教育を推進してきました。また、高校にさまざまな国の外国人留学生を受け入れるとともに、ニュージーランドのSt. Mary's college、台湾の曙光女子高級中学との交流を活性化しました。さらに学園が創立100年を迎えた昨年度、折しも150周年を迎えたハワイのSt. Andrew's Priory Schoolと提携開始、本年度は留学もスタートします。

国際交流と並んで大切にしていかなければならないのは、英語を中心とした語学教育の充実です。すでに4年前から電子黒板を使っている英語の授業が始まり、確かな効果を上げています。小林先生は今春より副校長に着任し、楠野校長とともに授業、

課外活動での英語教育改革を進めることになりました。「覚える」英語から「使える」英語への転換を目指し、さらなる改革を進めようと考えています。

授業での取り組み

高校では英語の授業は英語で実施し、発表、討論など高度な言語活動も取り入れていきます。2020年度にはセンター試験に変わる新たな入学試験が検討されており、中でも英語は大きく変わるとされています。その対策となるよう、授業内容に配慮していく予定です。中学校でも、授業は極力英語で進めるとともに、1年生の選抜特進クラスを国際教養コースにリニューアル。さらにグローバルな授業を進めています。

海外講師によるレッスンと学内留学

スカイプ(インターネットテレビ電話)による英語の個人レッスンは、高校2年生を対象に昨年からスタートしました。本年度は高校1、2年生の特進クラス夏期講座で実施する予定です。講師陣はセブ島やセルビアなど、第2言語として英語を習得した方々なので、少ない語彙でゆっくり丁寧に、話してくれるのが特徴です。今後はハワイ、台湾、ニュージーランドの提携校とスカイプを通じて交流することも検討中です。



また、高校では専門的な学問分野について英語で学習するイマージョン教育を「学内留学」と名付けて実施しています。本年度の内容は心理学で、特に保育や看護の道に進む生徒にとって役に立つ内容となっています。来年度は教育学を実施する予定です。さらに今秋、中学校では英語暗唱大会を、高校では英語弁論大会を計画しています。このような英語で話す、考えるイベントをどんどん増やしていきたいと考えます。

「ほんまもん」の英語体験を学内外で

目標は、「使える英語」が身につくよう、使う経験を増やしていくことです。学内外で「ほんまもん」の国際経験を積ませてあげたい。英語教育センターをもっと活用して、ネイティブスピーカーとのコミュニケーションを増やすとともに、学外でコミュニケーションする機会を増やします。

樟蔭生には個性的な生徒が多く、「やりたい」という意欲をひしひしと感じています。そういう生徒たちの熱意、期待に応え、生徒たちに「通じた」「使えた」という経験を積み重ねてもらうために、本校の先生方と力を合わせて改革を進めていきたいと思っています。

地域に寄り添う社会貢献のかたち 栄養士・管理栄養士の学び直しも

大谷 幸子 先生

大阪樟蔭女子大学 健康栄養学部健康栄養学科 教授
大阪樟蔭女子大学 大学院 人間科学研究科人間栄養学専攻附属
くすのき健康栄養センター センター長

今年4月に開設した、食と健康の交流拠点「くすのき健康栄養センター」のセンター長に就任した大谷幸子先生。これまでのご活躍とともに、今後センターでどんなことに取り組んでいくのか、お話をうかがいました。

■栄養サポートチームの実現に尽力

私が食と栄養の分野に進むことになったきっかけは高校時代。家族の食事を美味しく合理的、効率的に作るにはどうすればいいだろうと興味を感じるようになりました。そこで管理栄養士を目指そうと決意し、卒業後は病院に就職しました。当時、管理栄養士は献立を立てる仕事だと思われていたのですが、私は単に献立を立てるだけではなく、その献立が患者さんの栄養になっているか、食べる事で病気が良くなっているかを考えたいと感じるようになりました。そして、医師も含めた医療スタッフとともにチームで患者の栄養状態を管理する「NST(栄養サポートチーム)」の考え方を広めていきたいと考え始めたのです。

その後、チーム医療に取り組む中で、管理栄養士がもっと広く社会に貢献できる仕組みを作りたい、地域の栄養・健康を見守りたいと考えるようになりました。

「くすのき健康栄養センター」は、病院や施設では補えない、一人ひとりに寄り添う地域の「あなたの管理栄養士」の仕事が実現できる環境だと考えています。今後はセンターの活動を通じて、より多くの人々に食事・栄養の大切さを伝えたいと思います。

学生にも「今食べている食事はあなたの将来の健康を作っている」と伝えています。食の大切さに自分で気づいてもらえるよう、働きかけていきたいですね。

■食を通じた社会貢献を

センターは、本学大学院の附属機関として設置された施設です。6月に学外に移転し、地域連携と教育活動の拠点として一層の充実を図っていくことになりました。スタッフには経験豊かな管理栄養士が揃い、教員も運営委員として参加するなど、総力を挙げ取り組んでいきます。

おおたに・さちこ
石川県出身。同志社女子大学大学院修了。金沢大学医学部附属病院、東京大学医学部附属病院、淀川キリスト教病院の各栄養部門責任者を歴任し、2017年より本学教授、2018年よりくすのき健康栄養センター長。管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、日本糖尿病療養指導士、臨床栄養師。



センターの大きな活動目的は社会貢献です。管理栄養士を育成するために培った大学・大学院のスキルを、地域の人々に還元していこうと考えています。また、管理栄養士としての質の向上をめざす卒業生、地域の管理栄養士にも、学び直しの場としてセンターを活用してもらえる体制を整えていきます。

学生の実践的教育の場としての役割もあります。センターの活動に参加し、イベントなどに取り組んでもらうことを通じて、学生の知識がさらに深まることを期待しています。また、地域の人々と交流することで学ぶ意欲を高めてもらうこともねらいの一つです。管理栄養士の資格をもつ大学院生には、栄養相談の補助、料理教室の指導などを実践してもらうことも考えています。

■センターの多彩な活動

具体的なセンターの活動内容としては、まず一般の方への栄養支援・指導として、日常の食事についての栄養相談や、食事内容の評価などがあります。また医療機関と連携し、栄養食事指導を行います。さらに特定健診の結果、生活習慣病リスクが高いと判定された方に対する「特定保健指導」を地方自治体からの委託業務として行いたいと考え、現在、東大阪市に申請中です。今後は地域の管理栄養士さんとの協力体制のもとで、登録制でのケアステーションを展開するなど、さまざまな形で地域と繋がっていく予定です。

また、料理教室・食べ方教室をライフステージ別に開講していきます。子育て中の方を対象にした離乳食、アレルギー対策食の教室や、小・中学生と保護者に向けた食育教室や、働き盛りの社会人、特に男性も気軽に作れる料理教室、高齢者と支援・介助の方々に向けた誤嚥を防ぐ調理法、食べさせ方教室など、多様な内容を準備しています。いずれも「手軽に、楽しく作る」をコンセプトにした料理教室です。

さらに、幅広いいろいろな方々に向けたイベントを年に数回開催し、センターをフランクに話し合える場所として育てていきたいと思っています。まず、手始めに8月5日(日)には、開設記念イベントとして「くすのき健康栄養フェア」を開催します。健康機器を使った健康チェックや栄養相談体験のほか、健康栄養セミナー、子ども野菜スタンプコーナーなどを予定しています。また、10月21日(日)には大学院の公開講演会を開催し、地域交流を進めたいと企画を進めています。

そのほか、チーム医療に携わる人たちが日頃の問題を出し合って話し合うなど、地域のさまざまな職種の方がともに取り組めるような活動の場にしていきます。専門家だけではなくいろいろな立場の人が集まって多彩な健康啓発活動に取り組めるよう、センターが間に立って声かけしていきたいと考えています。

管理栄養士は地域での情報交換の機会が少ないのが実情と考えられますので、スキル、技術、マネジメントなど幅広い分野にまたがる最新の内容をカバーする講座を提供することが、地域の健康増進につながると期待しています。今年は管理栄養士のスキルアップセミナーを、3回開催する計画ですが、来年以降はより数多く開催する予定です。

●主な活動内容

6月19日(火)	健康栄養セミナー(一般向け)	はつらつシニア講座(後援:東大阪市) ※6月18日の地震の影響により延期
7月 7日(土)	料理教室	親子わくわくクッキング
7月27日(金)	スキルアップセミナー (専門職向け)	第1回 特定保健指導のコツⅠ
8月 5日(日)	健康栄養フェア	センター開設記念 健康栄養フェア (後援:東大阪市)
9月20日(木)	他職種連絡会	くすのきくらぶ例会
9月29日(土)	料理教室	イキイキ料理教室
10月11日(木)	健康栄養セミナー(一般向け)	スマートライフ講座
10月19日(金)	スキルアップセミナー (専門職向け)	第1回 特定保健指導のコツⅡ
10月21日(日)	記念講演会	くすのき健康栄養センター開設記念 大阪樟蔭女子大学大学院公開講演会

大阪樟蔭女子大学 大学院 人間科学研究科 人間栄養学専攻附属
くすのき健康栄養センター
kusunoki health and nutrition center



近鉄奈良線河内永和駅から徒歩3分

- 住 所: 東大阪市長栄寺2-12
Tunagaruビルディング4階 402号室
- 開 設 日: 月曜日～木曜日 10時～19時30分
土曜日 10時～17時
- T E L: 06-7506-9780
- ホームページ: <http://khn.osaka-shoin.ac.jp>



大谷先生から
ワンポイント
アドバイス

皆さん、しっかりとバランスのとれた食事を心掛けてください。栄養のことなら何でもご相談ください。

自分らしさが伝わる絵を描き続けたい

伸びやかで繊細な人物描写で独自の世界を展開するイラストレーターの谷小夏さん。絵と本気で向き合う楽しさ、厳しさを樟蔭高等学校美術部時代に経験し、絵の道に進もうと決意しました。本年度の樟蔭中学校、高等学校の案内パンフレット表紙を担当し、おおらかで気品高さを感じられる魅力的な樟蔭のイメージを伝えています。

イラストレーター 谷小夏さん

2009年3月 樟蔭中学校卒業
2012年3月 樟蔭高等学校卒業

たに・こなつ 東大阪市出身。樟蔭高等学校在学中に大阪私学美術展にて市長賞、大阪府献血ポスターコンクールにて大阪府知事賞など受賞多数。雑誌SAVVY、ルミネ有楽町、ファッションビルE-MAなどのイラストを担当。2016年5月、個展「PAPER0」(大阪市・SIO gallery)、2018年2月、個展「filmo」(京都市・出町座)を開催。

◆高3の春、美術系大学進学を決意

もともと絵を描くのが好きでしたが、本気で取り組むようになったのは高校時代からです。樟蔭高校の美術部に入学して、顧問の青木健地先生に指導を受けるようになってから、ますます絵を描くことに夢中になりました。青木先生の指導はいつも真剣で、とても厳しかったですね。先生に叱られないよう、先回りしてしっかり練習することで伸びたと思います。3年生の春に、美術系の大学に進もうと決意しました。

◆美術部の思い出

1年生の時、100号という、自分の背丈ほどもあるキャンバスに向かって無我夢中で絵を描いたことは、私にとって大きな経験でした。天王寺の大阪市立美術館で開催された大阪私学美術展に出品した時も、美術館への搬入がひと苦労だったことを覚えています。学校の帰りに大急ぎで画材を買いに行ったことが何度ありました。閉まりかけた画材店のシャッターを開けてもらって飛び込んだことも懐かしいですね。



美術部(当時高校3年)

◆「おおらかで知的」が樟蔭の魅力

特に意識しているわけではないのですが、高校生くらいの女の子たちを描く時には、自然と樟蔭時代のことを思い出して描いているような気がします。先生方について印象に残っているのは、卒業する時、担任だった国語の先生が「私にはこれから読みたい本がいっぱいあります。読書の時間が欲しいから、私も学校を卒業します」とおっしゃったこと。こんなに自由な生き方があるのだと驚きましたね。心が優しく、おおらかで、しかも知的で、意志的。そんなところが樟蔭で教える先生、学ぶ生徒たちの特徴だと思います。

◆自分しか描けない絵

大学時代、「オリジナリティが足りない」と言われ、青木先生に相談したことがあります。その時先生は「自分が描けば、それで自分らしくなるよ。悩まなくていいよ」と言われました。確かに、同じものを同じように描いても、人それぞれに独特のものが出来ます。それがオリジナリティだとすれば、何を描いても自分の絵になるんだと考えることができ、心が軽くなりました。

2016年に「奈良フードキャラバンプロジェクト」というイベントのイラストを依頼された時は、奈良県の美味しいものや正倉院の御物などを、透明水彩を使って



透明水彩で描いた正倉院御物

細筆でリアルなタッチで描きました。ふだん色鉛筆で描くイラストと透明水彩画は随分違いますが、やはり私にしか描けないものを意識しました。どの色をしっかり描きこみ、どの色を省略するかというバランスの中に自分自身を表現しました。

◆卒業生が描いた樟蔭生

樟蔭中学校・高校のパンフレットの表紙とポスターを描くことになった時に、まず考えたことは、受験生とそご両親にどんなことを伝えたいのかということでした。またそれと同時に、長い歴史がある樟蔭の、たくさんの卒業生が見たときに、「あ、私の樟蔭のことが描かれている」と思ってもらえるような絵が描きたかったのです。

中学校のパンフレットの表紙には、建学の精神である「知・情・意」を表す三人の中学生を描きました。高校のパンフレットの表紙には、それぞれのコースで夢に向かって頑張る女の子たちの姿を描いてみようと思いました。どちらも難しく、自分自身母校に対する思いが溢れ、何度も書き直しましたが、のびやかないい絵になったと自分でも思います。

生活指導の先生にはヘアスタイル、上着やスカートの丈、ネクタイの結び方などについて詳しくチェックしてもらいました。久しぶりに服装の指導をされたことで昔の日々がよみがえり、懐かしうれしい気持ちになりました。

◆100年残る絵を描く

私は大好きな絵を描き続けるために、イラストレーターという道を選びました。これからはもっと自分の幅を広げ、新しいことに挑戦していきたいです。画材や絵のスケールは変わっても、描き続ける対象はやはり人物だろうと思います。ただ、人物を取り巻く世界も広く描けるようになりたいですね。

大きな望みは、100年残る絵かきになること。100年後に誰か知らない人が私の絵を見て、「いいな」と思ってくれたら最高です。



谷さんがイラストを手がけた樟蔭高校(左)、中学校(右)のポスター



後輩へのメッセージ

「この先生から学びたい」と確信できる先生がいたら、ついていってみる事です。私も青木先生のおかげで成長できました。「絵の完成は自分で決めることができる。だから納得がいくまで粘り強く描き続けるように」という先生の言葉は、今でも心に残っています。どんな分野であれ、どうしても身につけたいことがあるなら、粘り強く続けてほしいですね。



美術室にて美術部の後輩とともに

学園

ご卒業・ご入学 おめでとうございます

3月、2017年度の卒業生（幼稚園36人、中学校89人、高等学校313人、大学473人、大学院9人）を送り出しました。学園創立100年という節目の年に在籍し、学園の歴史や伝統を肌で感じたと思います。樟蔭生としての誇りを胸に、新たな世界で活躍することを願っています。

次の100年へ向けて歩み始めた学園は4月、新入生（幼稚園58人、中学校80人、高等学校281人、大学652人、大学院11人）を迎えました。一人ひとりが学園の歴史を作ります。

思う存分学校生活を満喫し、大きく成長して欲しいと思います。



中学校
卒業式



幼稚園
卒園式



高等学校
卒業式



大学
卒業式



幼稚園
入園式



大学
入学式



中学校
入学式



高等学校
入学式

ご入学・ご入園

大学

児童教育学部児童教育学科に 名称を変更



「児童学部児童学科」は、2018年4月より学部学科名称を、時代のニーズに合った教育内容をより明確に示すために「児童教育学部児童教育学科」に変更しました。

2019年度からは、これまでの保育士資格、幼稚園教諭、小学校教諭免許に加え、新たに中学校教諭免許（英語）^{※1}が取得できるようになります。広い視野で子どもの発達や成長をサポートできる「保育・教育のプロフェッショナル」の育成を目指します。

また、2018年4月より西日本で唯一の「認定絵本士」課程認定校^{※2}にもなり、先進的な取り組みを行い、教育課程の充実を図っています。

※1 申請中（ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期が変更となる可能性があります）

※2 2018年度 先行実施（試行）校

大学

管理栄養士国家試験 5年連続合格率100%達成

100%



第32回管理栄養士国家試験（3月30日発表）に本学管理栄養士専攻の新卒受験生64人全員が合格しました。合格者のみなさん、おめでとうございます。5年連続で合格率100%は、全国の管理栄養士養成施設の中で本学だけという快挙です。

今回の試験の総受験者数は17,222人、合格者数は10,472人で、合格率は60.8%。管理栄養士養成施設における新卒受験生の合格率95.8%でした。

幼稚園

ピアノの音色に耳を傾け 幼稚園でコンサート

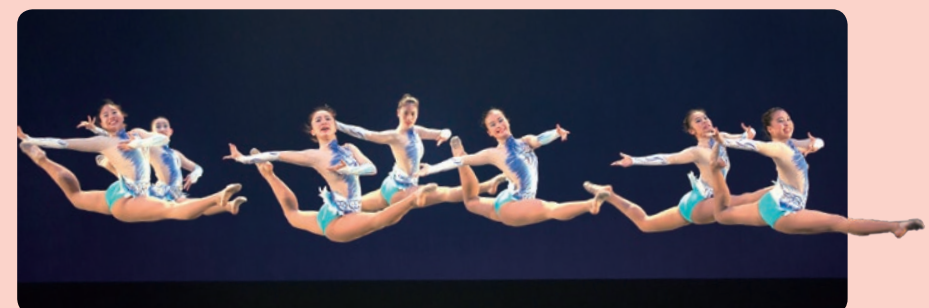
附属幼稚園で2月24日（土）、「SHOIN根っこを育てようプロジェクト」の一環でピアノコンサートを開きました。幼児期は、未来を生きるための根っこを育てる大切な時期です。この期間に本物の音楽に触れ、豊かな感性を育てたいという願いが込められています。

ピアノコンサートでは、卒園児や職員の演奏を親子で楽しんでもらいました。卒園児はこれまで一生懸命練習した成果を披露し、園児たちは静かにピアノの音色に耳を傾けました。また、子どもたちのよく知る曲目「ねこバス」をはじめ「ルパン三世のテーマ」「夢をかなえてドラえもん」が流れるとメロディーに合わせて手拍子したり、身体を揺らしながら、全身で音楽を楽しみました。



卒園児による演奏「ダイアナの泉」

中学校・高校



華麗な演技を披露

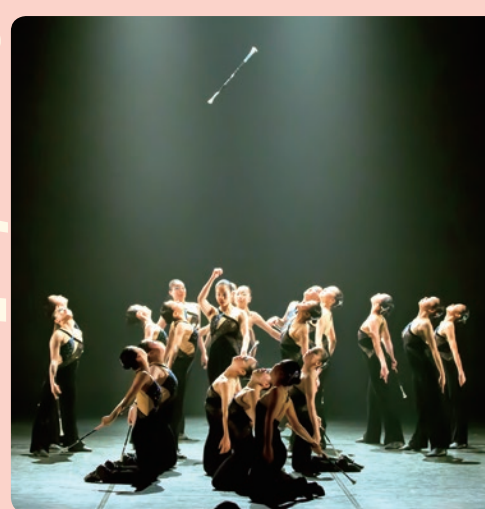
第8回身体表現コース発表会



「第8回身体表現コース発表会」を5月2日（水）、3日（木・祝）、八尾市文化会館プリズムホールで開催しました。

全国大会で活躍するダンス部、AGG世界大会に出場した新体操部、世界大会で銀メダル、JAPAN CUPで優勝したバトントワリング部、JAPAN CUPで8連覇のボンボンチア部が華麗な演技を披露しました。卒業生や樟蔭ジュニア（地域の小学生、園児のレッスン生）も参加。躍動感あふれる演技に約2000人の観客から「素晴らしい」との声とともに大きな拍手が送られました。

発表会は中学校・高校の身体表現コースで学ぶ生徒が練習の成果を発揮し、身体表現の魅力を地域の皆さんに発信しようと毎年5月に開催しています。



中学校・高校

大学

4月4日（水）、大学の学友会が新入生歓迎会を開きました。新入生の皆さんがより早く大学に溶け込み、自分にあったクラブ・サークルを見つけることを目的にしています。36団体がブースを設け、趣向をこらした勧誘合戦を繰り広げました。新入生たちは興味のあるブースを訪れ、先輩の話を耳を傾けていました。今年はトークショーやビンゴ大会も企画。会場は活気に満ち、にぎわいをみせていました。



大学と中学校・高等学校で 新入生歓迎会を開きました

中学校・高校では、4月11日（水）に自治会が新入生歓迎会を開きました。吹奏楽部、コーラスハーモニー部、箏曲部、ボンボンチア部、ダンス部、剣道部などが演技や演奏を披露して活動をアピールしました。たくさんの新入部員を迎えた各クラブは大会や発表会に向けて練習に励んでいます。



児童教育学科

「認定絵本土養成講座」開設
記念講演会

児童教育学科は2018年度より「認定絵本土」を養成する講座を全国の教育機関に先駆けて開設することになりました。この認定絵本土養成講座の開設を記念して5月27日(日)、講演会を開催しました。ノンフィクション作家で評論家の柳田邦男さんが実体験としての読書の大切さ、子どもにとっての絵本の有用性などについて講演し、絵本土は地域の絵本文化を支える面で重要になると唱えました。その後のパネルディスカッションは、学科長の菅正隆教授の司会のもと、文字・活字文化推進機構理事長の肥田美代子さん、国立青少年教育振興機構理事長の鈴木みゆきさんを交え、絵本や子どもの読書活動が成長に及ぼす影響や重要性について意見を交換しました。



美 Beautiful

「美 Beautiful」を掲げた公開講演会やシンポジウムを続々と開催しています。一部をご報告します。



ライフプランニング学科

「東大阪の食の魅力」を
テーマに公開シンポジウム

ライフプランニング学科は1月27日(土)、公開シンポジウム「東大阪のフードスケープ(食景観)―天下の台所の右はじから―」を開催しました。東大阪の食の魅力を再発見しようと企画。東大阪市内に本社を置く田代珈琲(株)の田代和弘社長、(株)三嶋フーズの三嶋隆夫常務取締役が「食品工場の未来―物流と冷凍技術から―」をテーマに講演。その後のパネルディスカッションでは、東大阪市長の河内俊之部長、学科長の萩原雅也教授も交えて行政や大学に求められることなどについて討論しました。

国際英語学科

第11回英語落語発表会

国際英語学科は2月14日(水)に「第11回英語落語発表会」を開きました。高座に上がった学生たちは、この日のために稽古を積んだ小咄と英語落語を堂々と、身振り手振りを交え、表情豊かに演じました。その後、本学科卒業生のくすのき亭朝がおさん、卒業生でプロになった笑福亭緑師、カナダ出身の落語家の桂福龍師、そして、学生を指導する本学客員教授の桂かい枝師がプロの話芸を披露し、観客に大きな笑いを届けました。



業生のくすのき亭朝がおさん、卒業生でプロになった笑福亭緑師、カナダ出身の落語家の桂福龍師、そして、学生を指導する本学客員教授の桂かい枝師がプロの話芸を披露し、観客に大きな笑いを届けました。

「食事を楽しむ」をテーマに
公開シンポジウム

健康栄養学科

健康栄養学科は2月4日(日)、公開シンポジウム「心の健康美につながる栄養～食事を楽しむ～」を開催しました。第1部は、大阪国際がんセンター栄養腫瘍科の飯島正平主任部長が、がん患者の治療中の食生活や、同センターが取り組んでいる病院食に楽しみをもたらす工夫について講演。続いて、和菓子メーカーの菓匠館・福壽堂秀信の岡本敏嗣社長が食事に和みを与える和菓子の魅力について、本学の大谷幸子教授が高齢者の食事について、それぞれの専門分野の視点から食事を楽しむ大切さについて講演しました。第2部では、「心の健康美につながる栄養」をテーマにパネルディスカッションを行い、「食と健康」について意見交換しました。飯島さんは「普通の食事をしても少し気を遣うだけで健康への結果は違ってくる」とアドバイスしました。コーディネーターは学部長の山東勤弥教授を務めました。



化粧ファッション学科

「美とアカデミアを紡ぐ
学館連携事業への誘い」

化粧ファッション学科は2月17日(土)、「美とアカデミアを紡ぐ学館連携事業への誘い」と題した公開シンポジウムを開催しました。神戸ファッション美術館学芸員の浜田久仁雄さんが本学と14年間の学館連携事業について、貴重な画像・映像を交えながら講演。第2部では、兵庫県洋服商工業協同組合理事長の井場幸男さんと、川野佐江子准教授とのトークセッション「軍服と紳士服」も行いました。会場には美術館所蔵の18世紀のローブ・ア・ラ・フランセーズのオリジナル作品と、本学がこれまで学館連携事業で制作したレプリカも展示しました。

国文学科

「なにわことばで花が咲く
春一番の落語会」

国文学科は3月17日(土)に公開講座「なにわことばで花が咲く春一番の落語会」を開きました。2018年度から新たな学び「大阪・上方のことば文化」の新設に伴い、大阪が誇る「美」のひとつである「船場ことば」をテーマに、学科長の田原広史教授の講演、落語家で本学客員教授の桂かい枝師と本学森西真弓教授の対談、かい枝師の落語を通し、伝統ある国文学科の新たな展開を紹介しました。



学園

樟蔭同窓会総会が開かれました



樟蔭同窓会総会が5月20日(日)、シェラトン都ホテル大阪で開かれ、約240人の卒業生が参加しました。同窓会の運営や活動報告、今年度の活動計画を示し、総会は無事に終了。その後の懇親会では、卒業生の葛原睦子さん(マンドリン)と江口由味子さん(ピアノ)が演奏を披露しました。アンコールで校歌を演奏すると、参加者の皆さんは自然と校歌を口ずさみ、学生時代の思い出がよみがえったようでした。世代を超えて懐かしい話に花を咲かせたり、恩師との語らいに時間が経つのも忘れるくらい楽しい時間を過ごすことができました。最後には恒例の福引大会で大いに盛り上がりしました。



高校

高等学校2年生が

テーブルマナー研修



昭和初期のテーブルマナー研修のようす(宝塚ホテルにて)

1月23日(火)、高等学校2年生がシェラトン都ホテル大阪でテーブルマナー研修を受けました。この日を楽しみにしていた生徒たちはフォーク、ナイフの使い方や姿勢など基本マナーを教わりながら、フランス料理のフルコースをいただきました。最初は緊張していましたが、食事が進むにつれ、徐々にリラックスした雰囲気。留学生も参加し、美味しい料理を楽しみながら普段と違った空間で有意義な時間を過ごしました。テーブルマナー研修は、戦前から続く樟蔭の「本物に触れる」教育のひとつで、毎年高等学校2年生が体験しています。



中学校・高校

出前授業 最先端の素材の力を体験

合成繊維や合成樹脂などを扱う化学素材メーカー、東レ株式会社の出前授業を2月22日(木)に行いました。中学校3年選抜特進コースの理科の授業と、放課後に中学校2年選抜特進コース、高等学校1年特進コース(希望者)が「先端技術と地球環境問題とのかかわり～素材には社会を変える力がある～」について学びました。東レが開発した先端材料(中空糸膜と炭素繊維)を使った実験を通して、ナノテクノロジーが身近な生活に活かされていることや、地球環境問題の解決に役立てられていることを教わりました。生徒たちは最先端の科学技術が理科の延長線にあることを知り、科学に関心を深めたようです。



ELTC

幼稚園児・小学生向け英語教室

Passport to the Future!



大学国際英語学科、樟蔭学園英語教育センター(ELTC)が共催する幼稚園児・小学生向けの英語教室「Passport to the Future! Shoin Kids English 2017」が無事終了しました。2012年から毎年開催しているこの講座では、児童英語教育を専門とするネイティブ教員が担当し、発達段階に応じた歌やゲームなどのアクティビティから、体験を通して英語に親しみます。2017年度は国際英語学科のトニー・ミノティ先生と英語教育センター指導助手のボロナ・フラスさんが全26回の講座を展開しました。講座に参加した園児・小学生は合計59人。最終日には子どもたちに修了書を授与しました。グローバル化が進み、様々な国との交流が増えてくる中、子どもたちにはうまく英語でコミュニケーションができるようになってほしいですね。

